

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書

施策体系コード	1-4-2	事業名	食産業振興プロジェクト事業
担当	経済局産業振興部産業企画課 大友 211-2372		
全体計画（当初）			
事業内容	＜年度別の事業内容＞		
	<p>北海道は農産品、水産品とも国内有数の食糧供給基地であり、札幌・北海道の食ブランドイメージは、国内外に一定の評価を得ている。しかし、市内食関連産業の経営基盤の脆弱さやマーケティングの弱さから、生産加工品等の多くは市民向け、内需型中心に止まっている。札幌・北海道が持つ食の資源を最大限に活用した産業振興策を推進し、高い商品力と競争力を持つ外貨獲得型産業に成長させる必要がある。</p> <p>札幌の安心・安全な食をブランドとして道内外にアピールするため、食物の生産、加工、流通、マーケティング、販売促進、リサイクルなど食に関する様々な経済活動の課程において、重点的かつ複合的な支援を行う。</p>		
事業内容（量・場所・規模等）	平成16年度事業内容（決算）	平成17年度事業内容（決算）	
	<p>ビジネスチャンス拡大支援事業...本市の主力製造業である食品製造業が国内外へ販路を拡大するための支援事業。平成16年度は昨年度に引き続き、国内最大の飲食料品見本市で国内外から多くの質の高いバイヤーが訪れる「FOODEX JAPAN」に参加し、市内企業6社及び1団体の出展支援をし、国内・海外への販路拡大を支援するとともに札幌をPRした。</p> <p>食産業ブランド化事業...地元農産物を素材とした商品開発並びにブランド化を推進することを目的として、「いちごクラスター研究会」を運営した。また、中小企業家同友会、生産者が手を結び地元果物を使ったお菓子の販売や市民を対象とした菓子コンペを実施した。</p>	<p>ビジネスチャンス拡大支援事業...16年度と同様に「FOODEX JAPAN」に参加。大型見本市への単独出展が困難な中小企業の経費負担を軽減し販路拡大を支援した。</p> <p>食産業ブランド化事業...市民の関心や知名度も年々高まってきており、「いちごクラスター」「菓子コンペ」ともに実施した。</p> <p>食産業振興プロジェクト推進運営事業...食関連産業の課題把握、先進的取組に対するケーススタディ、支援方策の検討を行った。</p> <p>食関連新技術導入促進事業...「食産業振興プロジェクト」の中核的事業としてモデル事業を展開する。（財）北海道科学技術総合振興センターが、新規性のある食品開発等を行う企業に指導・助言など総合的支援を行う事業に対し、要する経費の一部を補助した。</p>	
事業内容（量・場所・規模等）	平成18年度事業内容（決算）	評価（成果）	
	<p>「スイーツ王国さっぽろ」推進支援事業...札幌洋菓子協会が中心となって進めている同協議会に参加し負担金を支出。</p> <p>食関連新技術導入促進事業...「食産業振興プロジェクト」の中核的事業としてモデル事業を展開する。（財）北海道科学技術総合振興センターが、新規性のある食品開発等を行う企業に指導・助言など総合的支援を行う事業に対し、要する経費の一部を補助した。</p> <p>食品見本市出展支援事業...国内最大の飲食料見本市で国内外から多くのバイヤーが訪れるFOODEX JAPANに北洋銀行と連携して北海道・札幌ブースとして出展し、市内企業の国内・海外への販路拡大を支援するとともに札幌をPRした。</p>	<p>「スイーツ王国さっぽろ」推進事業...同協議会との連携を図ることで、「さっぽろスイーツ」を「さっぽろブランド」として道内外にアピールすることができた。</p> <p>食関連新技術導入促進事業...新規性のある食品や食品加工の新技术等に関する成功モデルを提示し、札幌の食をブランドとして道内外にアピールした。</p> <p>食品見本市出展支援事業...北洋銀行との連携によるスケールメリットで、より強力に「札幌ブランド」を打ち出すことができ、販路拡大支援をさらに強化することができた。</p>	
19年度以降の方向性（事業予定）			
<p>地域における食に関する資源を最大限に活用し、食物の生産、加工、販路拡大の各過程において、連携のとれた戦略的な産業振興施策を推進し、札幌の食をブランドとして道内外にアピールしていく。</p> <p>個々の支援施策については、事業効果を見極めながら継続していく。</p>			

